



山梨学院大学

# 経営ナビゲーション

—ビジネス革新への航海図

No. 26-2

平成26年7月15日発行

山梨中央銀行  
法人推進室

甲府市丸の内 1-20-8

山梨中央銀行は、大学等の研究機関が有する知的資産とビジネスの現場とを結びつけ、企業経営のイノベーションや事業機会の創出を支援するリエゾン（橋渡し）活動に取り組んでいます。

本レポートでは山梨学院大学の先生方と、その研究内容を紹介していきます。中小企業のみなさまが肌で感じとったビジネスの現場の空気と、気鋭の研究者たちが取り組むアカデミズムの最前線が出遭うこのレポートが、新たなビジネスの「創発(emergence)」の場となることを期待いたします。

<第14回>



## 地域活性化をリードする 中小企業の役目

いりえ くにひろ 先生  
(経営情報学部 教授)

《要点》

- 中心市街地活性化のポイントは、「この街で何をやる？」とならないようにすること。多くの世代を引きつけるためには「若い女性が歩きたくなる街」を目指し、空き店舗を作らない対策が必要。
- 地域活性化のキーワードは、「生活」「仕事」「レジャー」「コンベンション」の4つとされているが、一番重要なことは、地域の住民が現状に満足しない「改革意識」を持って取り組むことである。地域の人々が自ら活動しなければ、活性化は継続されない。
- 「鍵」となるのは地域の中小企業である。地域に根ざしている企業だからこそ見えてくる山梨県の誇り、魅力、課題、不満があるはずであり、中小企業の方々や商工会議所等が一丸となって、地域活性化を牽引してもらいたい。

### ■どのような研究をされていますか。

専門分野は、外国を相手にマーケティングを行う国際マーケティング論や、選手、スポンサー、ファン、メディアを含めてビジネスとしてスポーツを活用するスポーツマーケティング論ですが、その研究を地域に根差した着実なマーケティングへと応用すべく、中心市街地の活性化について研究しています。

■**中心市街地活性化支援についてお聞かせください。**

群馬県太田市の中心市街地活性化について、学生と共に取り組みました。まず、学生と市街地のリサーチを行った結果、若い女性が魅力を感じる要素が少ないことが分かりました。そこで、学生たちの意見を取り入れる中、「若い女性が歩きたくなる街」というコンセプトで市に活性化支援策を提案しました。また、明らかな効果は現れていませんが、この提案は、「若い女性が集まるところにはあらゆる世代の人間が集まるようになる」という社会的な傾向を反映させたものです。中心市街地は人が歩かないと盛り上がりません。街が面白くなければ人は歩かず、人が歩かないから街が面白くならないという悪循環に陥っている地方都市が多いと思います。

人が歩きたくなる街とは、その街に降り立ったときに「一体この街で何をする？」とならない街のことだと私は考えています。そのためには空き店舗対策が急務といえるでしょう。私の調査では、甲府市の中心街にある店舗の50%以上は現在空き店舗となっています。他県では起業したい若者に無料で店舗を貸し出すなどして空き店舗を活用し、市街地の活性化に成功している事例もあります。甲府市の空き店舗対策についても、群馬県の支援事例と同様、学生と一緒に何らかのお手伝いできればと考えています。

■**山梨県の地域活性化についてのお考えをお聞かせください。**

山梨県は県民満足度が47都道府県中14位であり（出典：2011年 法政大学大学院政策創造研究科 幸福度指数研究会 教授 坂本 光司）、県民は比較的現在の暮らしに満足していると言えます。しかし、山梨県は首都圏に位置しているながら、首都圏水準の生活はできていません。これは自然環境や交通インフラなど様々な要因がありますが、最も大きな要因は、山梨県の人々は現在の生活に満足しており、外を見ようとしていない県民性が大きく影響していると考えます。

地域活性化はその地域に住む人が中心となって取り組まなくては意味がありません。また、現状に満足している人が地域活性化に取り組んでもあまり成果は期待できないでしょう。山梨県の地域活性化は、まず山梨県民が現状に満足することなく、もっと外に目を向けることから始めるべきだと思います。

■**リニア中央新幹線が2027年までに開通予定です。山梨県にとってはより東京が近くなりますが、これは山梨県の人々がもっと外に目を向けるきっかけになるでしょうか。**

私は、「NO」だと思います。山梨県民は、時間がかかるから東京に行かないのではなく、現状に満足しており、東京に行く必要性をあまり感じていないから行かないのです。この意識が変わらなければ、リニアの開通が県外に目を向けることにつながるとは考えられません。

商売に関しても同じことが言えます。リニア中央新幹線の開通で大都市圏からの移動時間が短縮されると、県外からの参入も容易になります。ビジネスチャンスを確実に捉えなくては競合他社に負けてしまうかもしれません。

■**地域活性化には何が必要ですか？**

一般的に、地域活性化のキーワードは以下の4つと言われています。

- ①「生活」…マンションを整備することで定住人口が増加。
- ②「仕事」…オフィスを整備することで交流人口が増加。

③「レジャー」…ホテルを整備することで宿泊滞在人口が増加。

④「コンベンション」…大型イベントを開催する機会を増やすことで地域の魅力をPRする機会が増加。

この4点を整備することで、活性化を促すことができます。

山梨県もこのような観点を取り入れた活性化策を講ずることが必要となります。そして、地域活性化をするために、一番重要なことは、地域の住民が現状に満足しない改革意識を持って取り組むことです。プロモーションを大手企業に頼むのではなく、その地域の人から自ら活動しなければ、活性化は継続されません。そこで、「鍵」となるのが地域の中小企業だと思います。企業活動をする中で、県外の人との関わりは必要不可欠です。地域に根ざしている企業だからこそ見えてくる山梨県の誇り、魅力、課題、不満があるはずで、山梨県の企業ならではの機能を強化させ、中小企業の方々が一丸となって取り組むことで、地域活性化を牽引してもらいたいと思います。

■何か企業の方と取り組みたいことはありますか？

地域の企業の方々、青年会議所、商工会議所等の方で、地域活性化に取り組んでいる方に対し、私の今までの経験をもとに「外からの目線」としてアドバイスができます。また、私だけでなく学生とともに、まちづくりに参画することも可能ですので、ご相談いただければと思います。

以 上

“マーケティングを活かした地域活性化”についてご相談がある方は、  
山梨中央銀行 営業統括部 法人推進室  
TEL: 055-224-1091 まで、お気軽にご連絡・ご相談ください。